

金沢大学高大接続リーディング・セミナー事前課題一覧表

岩井淳『ヨーロッパ近世史』（ちくま新書、2024年）

氏名	Q1	Q2	Q3
小松果耶	二度の世界大戦から生まれた国民国家やナショナリズムの理念は近年問題視されているため、今まで多くの複合国家が誕生しその度に対立してきたヨーロッパを見習って日本も国民国家の枠組みから抜け出す必要がたつたのではないかと。	P21.22 歴史の教科書では近世の主権国家がそのまま現代の国民国家に繋がっているように感じるが、実際は当時の主権国家と複合国家の「二つの顔」がどれだけ混ざるかで現代の国民国家に影響していると考えられる。 P313 啓蒙思想は「近世」の枠組みの中で生まれ、諸問題の解決に向けて尽力した P10 「近代」の出発点とされた時代は、うって変わって「中世」の延長と見なされたのである。	P21 で筆者が述べているように、近世から近代への国家のつながりは国王が権利を持ち政治を行う君主政から議会在が力を持って政治を行う革命後の国家のどちらも主権国家であり、そこから近代における国民国家が誕生していったと今まで考えていたので近世には近世独自の面がある、主権国家よりも複合国家としての比率の方が高いというのは現代の国家のあり方について考える時に大きく役立つ新たな視点だと感じたため。
杉浦七楓	近世は中世でも近代でもない独自の時代として特徴づけられるべきと著者は主張している。	p321 ヨーロッパ近世は、第一部で見たように—、p239 ピューリタン革命—、 p128 こうして—	p321 の部分がかつとも重要だと考えた。なぜなら、今までのまとめであり、筆者の主張がはっきりと書かれているからだ。さらに、今までどのような視点で近世史を見て、どう考察したかがわかりやすかったからです。
手塚 慧	中世と近代という時代区分の中に隠れた近世という時代に注目して、「複合国家」という観点から国のあり方に様々な可能性を見出すことが大切。	(電子書籍にて正確なページ記載不可)比較史において複合国家を用いる事でまた新たな視点を開くことができる。(終章・日本近世との比較後半) ヨーロッパ近世における2つの特色(終章・本書のまとめ前半) イングランド主導によって行われたウェールズ合同がウェールズ側から歓迎されていたこと。(第10章・イングランドとウェールズの合同)	急激に変化し続ける昨今の世界情勢において求められるのはこれまでとは違う新しい視点からの政治であるため、このヨーロッパ近世史における複合国家やその他の特色を用いた視点は今の世界情勢が安定するため重要なものだから。

氏名 Q4

小松果耶 P172.173 十七世紀のオランダを中世、近代とも見ず中間の近世ととらえる点

Q5

義務教育9年間歴史の授業を受けてずっと気になっていたのはイギリス、ドイツ、フランスなど名前だけは出てくるくせにあまりその国の歴史については詳しく書いてないことだった。高校の歴史総合でフランス革命やプロイセンについて学んだけれども、やはり日本の歴史がメインで疑問が少し残っていた。学校の授業だけでは、ヨーロッパの歴史において近世のことは全く知らなかったため、筆者が語る当時の状況やそこから現代にどう繋がっているか、研究者達の考え方の違いすべてが私にとっては真新しいもので興味深く感じた。

杉浦七楓 ヨーロッパの政治体制や宗教改革の部分があまりよく分からなかったです。地図や教科書を使って国々の関わりを理解しようとしたのですが、完璧に理解できなかった。

歴史はあまり得意分野ではなく友達と一緒に取り組みました。やはり理解に時間がかかり大変でした。でも、「主権国家」と「複合国家」という視点や、宗教・経済・戦争・帝国の動きからなどの幅広い視野でヨーロッパ史を見ていて教科書でやった時よりも歴史の全体像をよく理解できたと思います。

手塚 慧 なぜわざわざ「近世」という時代区分を作る必要があるのか。

読んだ箇所ははしがきと第三部の第10章、そして終章だけであるが終章から筆者の主張とこの本全体のまとめが読み取れた。日頃ニュースを見ていると、ロシアによるウクライナ侵攻やアメリカのベネズエラへの攻撃などと急激に変化する世界情勢が見受けられる。そこで、私は今までの歴史を見返し、そこからの反省を今に活かすこと、そして今までの政治をもう一度考えより良い形でいまの政治に取り込むことが重要だと思った。極端な例で言うと20世紀の日本における軍部政治などだ。それを今実現しようとすれば過去のような政治の失敗がまた起こるだろう。しかし、複合国家などのような視点を用いて、別の視点から見ると、例における軍部政治は軍部による迅速な決定において優れていたと言える。このようにして過去の反省のみならず応用をするために、複合国家のような新しい見方を見つけるのは重要だと思った。

質問項目

- ・ Q1. 課題図書を読み、本書において、著者がもっとも主張したい事柄を自分の言葉でまとめて下さい (50 字程度)。
- ・ Q2. あなたが重要だと考えた箇所を 3 つ挙げて下さい (引用、要約どちらも可。ページ数を記載すること。行数は不要です)。優先順位の高い順に、記述して下さい。
- ・ Q3. Q2 のうち、もっとも重要だと考えた箇所についてのみ、その理由をまとめて下さい (100 字程度)。
- ・ Q4. 著者の主張のうち、理解できなかった点、納得できない点、よくわからなかった点などを一つ挙げて下さい (左記の各々について一つではありません。左記に関する事柄について、一つです。該当する箇所を特定できる場合はページ数を記載して下さい)。
- ・ Q5. 当日の Live セミナーにおいて、参加者で自由な議論することを少し念頭に置きながら、この本の感想を自由に書いて下さい (最低 100 字。上限はありません)